

# 口腔インプラント治療について



つの歯科 口腔外科  
Tsuno Dental Clinic

## はじめに

口腔インプラント（以下：インプラント）治療は何らかの原因で歯を失った部分の骨に人工歯根を埋め込み、その上に補綴物（被せ物）を連結することで見た目と咬む機能を回復させる治療法です。1960年代にスウェーデンで応用が始まって以来、骨との結合を促進するために、様々な改良がなされてきました。現在では、その臨床成績も向上し、歯の欠損部の治療を行なう上で有用な選択肢となっています。

しかしながら、自費診療であるため、高額な費用がかかることに加え、長期間機能させるためには、ご自身の歯と同様かそれ以上のお手入れが必要になります。この治療の利点・欠点を十分理解していただいたうえで、治療をすすめることが重要です。

ここでは、多くの患者さんが疑問に思われるような、インプラント治療に関する一般的な予備知識について記載しています。必ずしも全ての患者さんに当てはまらないところもありますので、治療を希望される方に対しては、当院で十分な診査を行った上で、個々のケースにおける具体的な注意点などを説明させていただきます。

つの歯科 口腔外科  
院長 津野宏彰

## ブリッジや入れ歯との違いは？

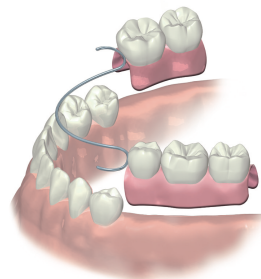
歯が欠損した場合、通常、欠損の部位や本数により入れ歯やブリッジによる治療が行なわれます。ブリッジは比較的小範囲の欠損に使用され、欠損前と同様な咬み合せを回復することが可能ですが、時に虫歯のない歯を削る必要があり、また土台となる歯に負担をかけることもあります。

入れ歯は、部分入れ歯と総入れ歯があり、取り外して洗うことができるため、お手入れは比較的容易です。部分入れ歯は、残りの歯で入れ歯を安定させるため、残りの歯に負担をかけてしまうことがあります。総入れ歯の場合、顎の形態によっては入れ歯の安定が困難となることもあり、一般的に咬む力が減少します。

インプラントを行なうと、他の歯を削ったり、負担をかける必要が無い治療をすることも可能です。また少数のインプラントと入れ歯を併用することにより、入れ歯の安定が増し、よく噛めるようになることもあります。



前歯のブリッジ治療



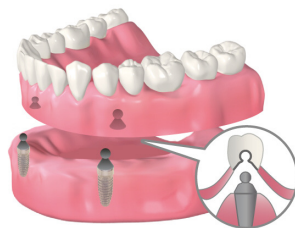
奥歯の入れ歯治療



1歯欠損の例



奥歯3歯欠損の例



入れ歯との組み合わせの例

インプラント治療の短所は、

- ①健康保険の適応がないため、高額な治療になる
- ②従来の治療法より、治療期間・回数がかかる傾向がある
- ③将来的な口腔内の状況変化に対して、対応が限られてくる可能性がある  
(例：入れ歯の場合は修理ですむところが、インプラントの場合は、新たにインプラントを追加したり、かぶせものを作り直ししなければならない)

などがあげられます。

治療時の全身状態や口腔内の状況、通院の関係により、必ずしもインプラント治療が最適ではないこともあります。当院では十分な診査・診断の上、それぞれの患者さんにとって最適な治療法について相談させていただきます。

## インプラントは自分の歯と同じように使えますか？

インプラント治療がうまくいことにより、多くの患者さんは、噛む能力が回復し、ご自身の歯と同じような感覚で噛むことができると言われます。ただ、本来の歯と同じと考えることは時に注意を要します。インプラントは、ヒトの体にとってはあくまでも後から埋められた異物であるため、インプラントの周囲に汚れがたまってしまうと、歯槽膿漏と同じ様な経過をたどり、インプラントが脱落する原因になります。

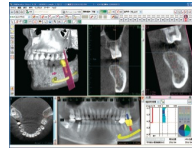
もともと歯を失ったのには、それなりの原因（多くは虫歯か歯槽膿漏）があったと考えられ、その問題点を十分改善した上で、インプラント治療を行わないと、失敗の原因になります。当院では十分な口腔清掃状態を確認したうえでインプラント治療をすすめていきます。

## 治療期間と費用はどのくらいですか？

一般的にインプラントは次のような過程により、治療をすすめていきます。欠損の部位の歯の数、補綴物（被せ物）の違いにもよりますが、最終的に冠や入れ歯が入るまでは、短い治療でも2～3か月、長期の治療の場合、1年以上にわたり治療が必要になることがあります。

### 1.術前診査→治療方針の決定

この間、歯周病治療を中心とした必要な治療を併行します



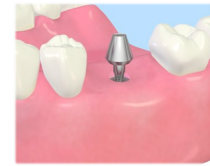
### 2.一次手術（インプラントの埋め込み）

上顎では3～6ヶ月、下顎では1～3ヶ月インプラントと骨が結合するのを待ちます。（骨の造成が必要な場合もあり、その場合はもう少し期間が延長する可能性があります。）



### 3. 二次手術

埋入したインプラントに土台を連結します。一次手術で同時に行うこともあり、その場合はこの過程はありません。

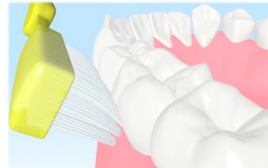


### 4. 被せ物・義歯の型取り

しばらく仮歯で経過を確認することもあります。



### 5. 最終補綴（被せ物・義歯の装着）



### 6. 定期検診・メンテナンス

この治療は健康保険の適用外であり、自費診療となります。当院では1歯あたり35～40万円程度が基準となりますが、治療法や材料により相違がありますので、治療にあわせて説明を行います。

## インプラントは誰でもできますか？

数は少ないのですが、チタンのアレルギーのある方は適応が不可能と考えられます。また、全身的な疾患により、治療を見合わせる場合があります。また、歯ぎしりが強い方、ヘビースモーカーの方、糖尿病などの全身疾患をお持ちの方は注意を要します。

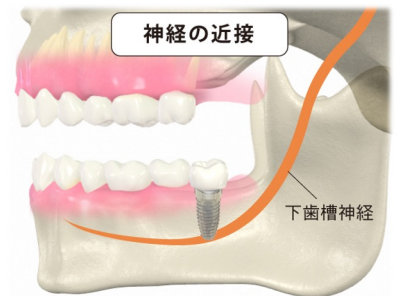
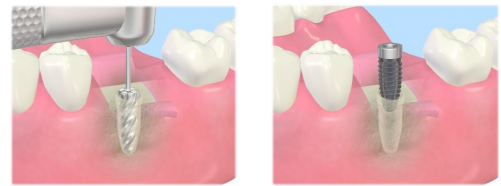
インプラントは骨の中に埋め込むため、十分な骨の量がないと治療が困難になります。部位によっては骨の移植が必要な事があるため、当院では、CT検査などにより十分に診査をした上で治療方針を決定します。

お口の中の清掃が不十分な方、残りの歯の歯槽膿漏が進行している場合は、長期のインプラントの安定がえられない可能性がありますので、当院では歯周治療・清掃指導により改善が認められた方に治療をおすすめしています。

## 手術はどのようなものでしょうか？危険性はありませんか？

インプラントの埋入手術は骨を削って行ないますが、手術中は麻酔により痛みを感じないように行います。術後ある程度の痛みはあります（個人差はあります）が、鎮痛剤の内服で対応可能な範囲と考えられます。

下顎の骨の中やそばには、様々な神経や血管が走行しており、手術によりこれらの神経を損傷すると、舌や唇にしびれが生じることがあります。また、上顎の奥歯のインプラントを行う場合には上顎洞（上あごの空洞）が近いため、術後、蓄膿症を併発することがあります。当院では、CT検査など、術前に十分な検査を行い、このような後遺症が発生しないように努めています。危険性が高いケースに関しては、治療法について再検討させていただくこともあります。



## インプラントはどのくらいもちますか？治療がうまくいかないことはありますか？

治療する部位や、インプラントを入れる骨の状態、患者さんのかみ合わせやお口の中の清掃状態にもよりますが、現在、インプラント治療の成功率は90%を超えています。また、現在までに40年以上、インプラントを使用している患者さんがいらっしゃいます。しかしながら、いまだ100%の成功がえられる確証はありません。統計上では次の①～③がそれぞれ2-5%程度で生ずる可能性があるとして報告されています。

- ①インプラント埋入手術後、骨とインプラントの結合が得られない
- ②補綴物を装着後、比較的早期（多くは1年以内）にインプラントが脱落する
- ③補綴物を装着後一定期間経過してから（多くは5年～10年後）インプラントが脱落する

原因としては、

- 1) インプラントを入れた部位の骨質が不良な場合
- 2) 喫煙や全身疾患の影響
- 3) 歯ぎしりの影響
- 4) 口腔内の清掃が不良で生じたインプラント周囲の細菌感染
- 5) かみ合わせの変化による、インプラントへの過負担



などが考えられます。特に4)、5)に関しては、定期的観察を中断された患者さんで、問題になる傾向がみられます。毎日のご自身での口腔清掃と定期的な診察はインプラント治療を成功させるための最重要項目と考えられます。治療が終了しても、患者さんの口腔清掃の状態やかみ合わせの状態、レントゲン所見などを確認しながら、3ヶ月～1年毎のメンテナンス間隔を設定しています。

また、上記以外では、人工歯根部は経過が良ければ長期に安定すると考えられますが、補綴物（冠や義歯）に関しては、患者さんの咬合力やかみ癖などにより、破損や摩耗が生ずることがあります。程度によっては、一定期間の使用後に修理や再製作が必要となることもありますのでご了承ください。